

平成 30 年度 モアショロ原野螺湾足寄停車場線  
モアショロ原野地区の環境影響に関するワークショップ（第 1 回） 【 議 事 概 要 】

日時：平成 30 年 11 月 21 日（水）13：00～15：07

場所：帯広建設管理部 A 会議室（2 階）

出席者：《ワークショップ参加団体》

団 体 名	氏 名	備 考
帯広ウチダザリガニ・バスターズ	鏡 坦	
川と河畔林を考える会	高倉 裕一	
十勝川水系の生態系再生実行委員会	石垣 章	懇談会構成員
十勝自然保護協会	川内 和博	
NPO 法人十勝多自然ネット	伊豆倉 米郎	
日本野鳥の会十勝支部	飯嶋 良朗	懇談会構成員
雌阿寒自然塾	岩原 榮	

《有識者構成員》

氏 名	専門分野	所属等
加賀屋 誠一（座長）	自然災害科学、都市工学	北海道大学 名誉教授
柳川 久	野生動物管理学	国立大学法人帯広畜産大学 副学長
飯嶋 良朗	鳥類（一般鳥類）	日本野鳥の会十勝支部 監事
持田 誠	植物	浦幌町立博物館 学芸員
石垣 章	淡水魚類	十勝川の生態系再生実行委員会
澤村 寛	地質	足寄町動物化石博物館 館長

《有識者構成員欠席者》

山本 純郎	鳥類（シマフクロウ）	環境省シマフクロウ保護増殖委員
-------	------------	-----------------

《オブザーバー》

氏 名	所属等
末永 珠佑	環境省 釧路自然環境事務所 阿寒湖自然保護官事務所 国立公園管理官
岡田 信善	北海道森林管理局 十勝東部森林管理署 主任森林整備官
村石 靖	足寄町役場経済課商工観光振興室 室長
岩淵 堅志	足寄町役場建設課 室長

《帯広建設管理部》

氏 名	所属等
岩井 健治	十勝総合振興局帯広建設管理部事業室 事業室長
橋本 雄太	十勝総合振興局帯広建設管理部事業室地域調整課 地域調整課長
井馬 俊安	十勝総合振興局帯広建設管理部事業室道路課 道路課長
時田 直樹	十勝総合振興局帯広建設管理部事業室道路課 主査（道路）
中山 学	十勝総合振興局帯広建設管理部事業室道路課 主幹
長田 英樹	十勝総合振興局帯広建設管理部事業室事業課 主査（道路第5）
三橋 祐介	十勝総合振興局帯広建設管理部事業室事業課 道路事業担当 主任

## ワークショップ 意見交換会

### 1. 持田

- ・一番気になるのは工事後の外来種の侵入。既存の道路とは全く違った形で（一気に林が開けるため）外来種が入ってくる可能性がある。特に緑資源林道の方からフランスギクなどが工事の過程で法面に入ってくる可能性は非常にある。施工しながら周辺の在来種の播種とか外来種の除去など細かな関与をしていかないといけない。
- ・道路側溝の蓋つき側溝は土砂が堆積して外来種が繁茂してしまうことがある。
- ・絶滅危惧種の種名については、いろいろな考え方があると思うが、今回は公開とした。情報を出さない事で知らない間に工事などがされてしまう事もあり、今回は対象種の状況から、公開の方が望ましいと考えた。

(座長)：工事の話になると外来種は非常に問題となってくるので、どのような工法を選ぶか、いろんな形で考えていくべきことかと思えます

### 2. 飯嶋

- ・この調査は、工事による影響と工事後の変化を調べる基礎資料となるため、調査回数をもう少し増やしてもいいのではないかと。

(座長)：ベースラインのデータをきちんと整えることなので、不足するというのであればやる必要があるし、来年度の調査として相談してやっていただければと思います。

### 3. 石垣

- ・冬期における火山の噴火の影響（湖の氷が解け川の増水による道路への影響）について、この範囲なら影響が有る無いなど、もう少し詳しく想定された情報が欲しい。

(座長)：継続して考えていただければと思います。

### 4. 澤村

- ・素掘り側溝の区間が岩塊状の溶岩であることにより大雨・地震が起こった場合、落ち込んだり路盤材の下に流れ込んだりする心配がありますので、工法や地質の専門家にチェックして頂いた方がいいのではないかと。

(座長)：安定工法が必要になってくるので考えていただきたいと思えます。

### 5. 柳川

- ・段付き横断管で位置、管径も問題ないと思えます。あとは犬走と呼ばれる段の幅を、今まで動物が使っている幅にして頂ければそれでいいかと思えます。只、段の幅だけを優先させると、段の上を渡るのと下の水路を渡るのが好きな動物がいる。キツネやテンは上が好きでタヌキは下の水の中を渡るのが好きなので、両方のことを考えて設計して頂ければと思います。

(座長)：段付き横断管でいいということですね。

## 6. 帯広ウチダザリガニ・バスターズ

・緑資源機構が作った大規模な林道で柵の中に多くの動物が死んでいる。雨の後行くとサンショウウオ、カエル、昆虫、ミミズがいっぱいいる。柵の構造をきちんとしなければならない。シーズンになるとカエルなどが動き出し落ちて死ぬ。そういう事が起こる可能性があるのもその辺の調査をしなければならないのかなと思います。

・オンネトーの周辺の道路で、素掘りの側溝が落ち葉で埋もれて詰まり、あふれた水が道路を横断し道路が洗掘されているところが何か所かあった。特に雪解けの時には別の流路から水が入ってくる。そのようなことも素掘りの場合は考慮しなければならない。

・新しい道路ができると、わずかに風の流れなどが変わる。日高横断道や大規模林道などで一番顕著にわかるのは、花が咲くとそこに沢山の昆虫が来ます。ところが新しい道路が傍にできると2、3年で昆虫が全く来なくなる。道路による生態系の改変でそういうことがあるので調査しておく必要があるのではと思います。

・外来種は間違いなく入るので、そういうことも油断せずに調査しておかなければならないと思います。

(座長)：そういう変化は起こりうる可能性がある。事前に調査はやっていると思いますので、実際にできてから工事後の調査として考える必要がある。

## 7. 川と河畔林を考える会

・横断管について、エゾシマリス、エゾクロテンはどの位の行動範囲ですか。エリア内で移動する主たる目的は？

(柳川)：シマリスはそんなに移動はないです。クロテンは4ヘクタール位です面積としては。繁殖の時期があるので変わりますが、基本は道路の上を渡れるか、構造物を創ったらそこを通る。特に日中はそこを通る可能性があります。移動の目的は、餌と配偶の確保です。

・雌阿寒の地質図ともろもろの予測は、いつ立てられたものですか？最新の火山地質に関わる新しい種々の研究成果を網羅し捉えた上での話しですか？何年頃のもの为基础にしているか教えてください。

(足寄町)：足寄町で作っている防災計画は、雌阿寒岳の火山防災計画（平成28年4月に発表されている）を基に作っています。これは気象庁の雌阿寒岳火山防災協議会で議論された結果から作られています。

・ここに出されている地質図の発行年は？土石流はハザードマップの中に予測されていないのですか？

(座長)：地質図については分かり次第流してもらえばと思います。土石流に関しては、噴火の規模とかそれに対する対応とか、ある程度ハザードマップで分かると思います。

## 8. 十勝自然保護協会

- ・当協会からの質問は形として書面で出しましたので、回答は書面で頂きたいと思います。
- ・当協会が参加したWS以外での懇談会などの議論について不明な点を質問しています。

計画路線は、ほぼ全線にわたって切土・盛土が行われて法面が形成され、40m程の開放空間ができるが、その他の計画案がコントロールポイントをどのように考えたのか、また、法面形成を伴わない工法を3つ上げ、すでに議論されたのかなどを質問しました。

- ・橋梁、擁壁の説明で工事費が高くなるとは具体的にどうなるのかという所が気になります。
- ・伐採予定域の材積などはやっていないとのことでしたが、これは必要なことです。
- ・計画路線どおりであれば、40m程の開放空間は変わらないことが改めて分かりました。
- ・動物の移動で横断管は切土の所はどうなるのかという点と、開放空間は変わらないということであれば外来種についてももう少し説明して頂ければと思います。

(柳川)：盛土は障壁ができるのでその中を通してやろうということで、切土の場合は基本必要ありません。切土はそのまま横断する。交通量が多い場合は交通事故を想定して安全に亘れるところを考えますが、この道路の場合それ程交通量が多いとは考えられないし、動物の横断頻度も高いとは考えられない。ですから切土の場合は必要ないと思います。

## 9. 座長

・擁壁や橋梁の説明で大規模な切土盛土の断面を出していただいています。実際こうゆう所が存在するということですか？改変幅35mとありますが高さは何の位なのか？何か所？このような断面が沢山あると問題だなという感じです。例えば一部この様な断面があって、プラスマイナスゼロに近い形で流れているということであれば、イメージとして捉えることができる。あまり、切盛りするのは基本的に私も好ましくないという感じはありますが、10m前後ですとそんなに驚くような土地改変のイメージを持たなくていいと個人的には思います。

## 10. NPO 法人十勝多自然ネット

・よく比較設計されていて分かりやすいものが出来ていると思います。しいて言えば外来種で、フランスギクなど計画路線には無く周りには沢山あるということで、工事によって入ってくるという危惧を感じます。

(座長)：ここだけ(計画路線)無いので危ないという感じがします。

## 11. 雌阿寒自然塾

・側溝の勾配は道なりということでしょうか、そうすると急な勾配ができやすいが、岩盤だから大丈夫ということですね。

・避難する際何か所かUターンできる退避箇所があると、上からの車を阻害しなく待つ空いた時にUターンできる。検討して頂ければと思います。

(座長)：設計の段階で色々と考えていただけるとと思います。

## 12. 持田

・川内さんに確認したいのですが、「計画路線を利用する車両台数と人数」について、この内容で納得頂けるでしょうか？

(十勝自然保護協会)：避難路としての位置づけな訳です。どの程度のものが必要なのかという素朴な質問です。ここで話すことではないことですが、今後オンネトーの周辺をどのように考えて行くといことは、私どもは常に気にはなっています。また、時速 40 km で設定されているのは、本気ですかということですね。

・私の感覚ですが、御質問の趣旨は、現段階のオンネトーの観光客を見ている限り、道路の設計が避難路とは言え、かなりオーバー（規模過剰）なのではないかという懸念にあるのかなと思いました。

本当のところを言えば、こんな道路は作らないのが一番良いと思います。ただ、最近の噴火レベルの上昇とかいろんな問題が出て、さらに今後、阿寒湖オンネトーの観光利用を促進していくという方向で進んでいるのをみると、そして全国で起きている災害の実情を見ると、将来を見越して避難路が必要だと言われれば整備するのもやむを得ないかな、との気持ちもあります。したがって、今回の道路計画は、観光入り込み数が、今後ある一定程度伸びていくという方向性をにらんだ道路設計なのかなと思っています。

ルート案もいくつかあり、そのなかには、たしかになるべく現道に沿ったルート案もありました。しかし、避難路であることの条件を考えると、道路の勾配がたくさん出来てしまうことや、カーブの半径が大きな支障になるので、そこを避けつつ、一番環境に影響がない範囲を取ると、やはり、今回のルート案になってしまうのかなと。なるべく現道の活用をというのは、当初私も思っていたのですが、自然環境への影響を最小限に抑えるという面と、避難路としての必要な条件を総合的に考えると、このルートに落ち着いたという辺りをご理解いただければと思います。

今後も、疑問はどんどん出させていただくのがいいのかなと思います。その度に丁寧に経緯を説明する必要が今後もあると思います。

## 13. 帯広ウチダザリガニ・バスターズ

・現場を見ますと大きな木が切られます。切る木のクラス（大きさ）別に材積をまとめ、これくらいの規模の改変になるというイメージを作るデータが欲しいと思いました。樹種と胸高直径など、大体どの位切ることになるかというデータを出していただきたい。

(持田)：確かに現地には大きな木があり、こんな良い森を切るのか？という思いにかられます。ただ、実際に植生調査や毎木調査の結果としてデータで見ると、阿寒山麓に広くみられる針葉樹林という結果になってしまう。実際にはそうした針葉樹林自体が今は大事な訳ですが、あのルートに固有の植生というデータにはなっていないと思います。

まだ道路設計が具体化していないので、具体的な材積などの数値は出せていない訳ですが、およそどの位の大きな木がどれくらい無くなるのか？というのは、情報として確かにあった方がいいとは思いますが。

(座長)：コドラート調査、点ですけどやっていますから、そのようなデータで少し推測できるかもしれない。

座長：

- ・できた道路に対してどのような使い方をしていくのかを合わせて考えていかなければいけない。
- ・計画段階で経済性や技術的なもの、制度的なものの可能性も含めてこういう議論をしながら皆さんが納得できる、特に地元の方が納得できる事業を展開していくというのが大事なポイントだと思います。また、想定外というか避けるような形の問題などを取り上げていく必要があると思います。